

キリスト教委員会のHP(<http://rakuno-ce.org>)にアクセスして事前に聖書や讃美歌の確認をしましょう。

【本日の奨励】

教会暦では12月1日(日)からアドヴェント(待降節)に入り、大学では本日がアドヴェントの第一回目の礼拝となります。今日の聖書テキストの「マリア讃歌」(magnificat)はクリスマスの意味を最も良く表しています。イエスが生まれた紀元1世紀のユダヤはローマ帝国とその意を汲むユダヤの王侯貴族が圧政を振るい、その取り巻きが厚遇される一方で、取り残された市井の民は抑圧に苦しみ、社会的弱者は切り棄てられる時代でした。このような時代の直中で、マリア讃歌はイエスがメシア(救い主)としてこの世界に到来することの意味が、権力の座で驕る者を引き降ろし、社会的弱者を高く引き上げることでであると宣言しています。したがって、クリスマスとはキリストの誕生日をお祝いする記念日であるだけでなく、社会的・政治的・経済的な問題を見つめ直すときでもあるのです。ルカ福音書に登場するマリアはクリスマスの真の意味を透徹した眼差しで捉え、イエスの誕生の意味をわたしたちに伝えてくれているのです。現代世界はイエスが誕生した時代と同じように圧政が猛威を振るっています。「マリア讃歌」の精神は「酪農讃歌」の「窮乏の底に沈める国興せ」という歌詞と通底するものだと思うのです。酪農学園に連なる者として、イエスの誕生を「待ち望む」(ad+venio=advent)とき、この社会やこの世界の現実に今一度目を留めて、クリスマスの意味を再確認したいのです。

【リースとヒンメリの作成・設置】

今年もアドヴェントに合わせて、リースとヒンメリの作成と設置が完了しました。リースは学生の有志によって8個が作成され、講堂、中央館、本館、C2号館、学生サービスセンターなどに飾られています。ヒンメリは麦藁を循環農学類の作物学研究室(義平大樹先生)がご提供くださり、羊毛フェルトボールは元野幌の羊の毛を用い、作成はヒンメリ作者のご協力のもと循環農学類の食物利用学研究室(宮崎早花先生)がしてくださいました。設置場所は講堂のロビーです。昼間だけではなく、ツリーが点灯する夕暮れ以降も綺麗ですので、インスタ等で紹介してください。

【次回の大学礼拝】2019年12月10日(火)10時40分

次回の大学礼拝は札幌のゴスペル・クワイアのKNOW GOSPELによるライブです。クリスマスの楽曲も入っています。ぜひご出席ください。

【前回の大学礼拝】2019年11月26日(火)

学生:240名 教職員ほか:9名 合計:249名

【大学礼拝週報】2019年度 第25号(後学期第10号)

2019年12月3日(火)午前10時40分

酪農学園大学 黒澤記念講堂

《大学礼拝》

司 式 小林昭博(宗教主任)
奏 楽 佐藤理恵(野幌教会会員)
讃美指導 相原晴伴(循環農学類教員)

前 奏 「主を待ち望むアドヴェント」(ロール作曲)
讃美歌 讃美歌21 267番(ああベツレヘムよ)
聖 書 ルカによる福音書1章46-55節

祈 り
さん び 酪農学園大学聖歌隊
奨 励 「マリア讃歌とアドヴェント」 小林昭博(宗教主任)

讃美歌 讃美歌21 175番(わが心は)
報 告
後 奏 「戸を上げよ」(アーベル作曲)

【本日の聖書】ルカによる福音書1章46-55節

- 46そこで、マリアは言った。
47「わたしの魂は主をあがめ、
わたしの霊は救い主である神を喜びたたえます。
48身分の低い、この主のはしためにも目を留めてくださったからです。
今から後、いつの世の人も わたしを幸いな者と言うでしょう、
49力ある方が、わたしに偉大なことをなさいましたから。
その御名は尊く、
50その憐れみは代々に限りなく、主を畏れる者に及びます。
51主はその腕で力を振るい、思い上がる者を打ち散らし、
52権力ある者をその座から引き降ろし、身分の低い者を高く上げ、
53飢えた人を良い物で満たし、富める者を空腹のまま追い返されます。
54その僕イスラエルを受け入れて、憐れみをお忘れになりません、
55わたしたちの先祖におっしゃったとおり、
アブラハムとその子孫に対してとこしえに。」